

小山市事務事業評価シート

令和4年度版

No. 12

1. 基本情報											
<1> 事業・業務名	なつみずたんぼ振興事業				<2> 事業・業務の別	事業					
<3> 選定基準	② 事業の範囲や経費等について、市の裁量の余地がある事業				<4> 継続業務・新規業務の別	継続業務					
<5> 総合計画基本計画での体系	大項目	5 魅力ある自然環境を守り 伝統を継承するまちづくり				<6> 担当部(局)	産業観光部				
	中項目	5-1 自然環境の保全・活用とエコツーリズムの推進				<7> 担当所属	農政課				
	小項目	5-1-1 渡良瀬遊水地				<8> 担当係等	環境創造型農業推進係				
	施策	環境にやさしい農業を中心とした地場産業の推進									
<9> 根拠法令・計画等	環境にやさしい農業補助金交付要領				<10> 関連・類似事業						
<11> 会計	一般		会計		<12> 予算科目	6 款 1 項 2 目					
<13> 実施期間	年度 ~		年度		<14> 全体事業費	千円					
<15> 実施手法	補助金・負担金・貸付金等				「その他」の場合 ()						
2. Do - 実施 -											
<16> 事業・業務の概要	夏季に麦の収穫後の農地などに湛水し、水鳥、水生生物などの生息環境を創出します。										
目的	<17> 事業・業務の目的	自然環境や生物多様性に配慮し、コウノトリ等の野鳥が降り立つことのできる水辺を産みだします。									
	<18> 事業・業務の対象	市内に住所を有する農業経営者、農業者の組織する生産団体									
手段	<19> 令和3年度の活動内容	農政推進員を通じて農業経営者等に申請書を配布し、田んぼに夏季湛水を行った実施者に、10aあたり6,000円の補助金を交付しました。対象人数:32人、実施面積:23.4a、交付額:1,418,904円									
	<20> 活動指標(活動した量や実績)	指標名	単位	令和2年度		令和3年度		令和4年度	令和5年度		
				計画	実績	計画	実績	計画	計画		
		申請書配布枚数	枚	933	933	1,020	1,020	982	1,000		
	指標とした理由	制度周知者を客観的に把握できるため。									
	指標とした理由										
成果	<21> 事業・業務の成果	なつみずたんぼの実施面積が23.4haとなり、コウノトリ等の野鳥が降り立つことのできる水辺が減少しました。									
	<22> 成果指標(活動した結果得られた成果の量や実績)	指標名	単位	令和2年度		令和3年度		令和4年度	令和5年度		
				計画	実績	計画	実績	計画	計画		
		実施面積	ha	31.3	31.3	33.0	23.4	30.0	30.0		
	活動指標との関係や成果指標とした理由	コウノトリ等の野鳥が降り立つことのできる、自然環境や生物多様性に配慮した水辺の産出の結果であるため。									
	活動指標との関係や成果指標とした理由										
資源	<23> 投入指標(投入するお金の量)	コスト実績		単位	令和2年度		令和3年度		令和4年度	令和5年度	
					計画(予算)	実績(決算)	計画(予算)	実績(決算)	計画(予算)	計画(予算)	
				千円	2,862	2,313	2,367	1,806	2,187	2,187	
		事業費等		千円	2,475	1,926	1,980	1,419	1,800	1,800	
		財源内訳	国・県補助金	千円							
			地方債	千円							
			その他	千円							
			一般財源	千円	2,475	1,926	1,980	1,419	1,800	1,800	
			上記の主な用途	補助金交付							
			人件費	千円	387	387	387	387	387	387	
	正職員	千円	7,737 × 0.05	7,737 × 0.05	7,737 × 0.05	7,737 × 0.05	7,737 × 0.05	7,737 × 0.05			
	他の職員	千円	×	×	×	×	×	×			

3. Check - 評価 -			
妥当性	<24> 事務事業を実施する目的や対象は妥当か?	1. 妥当である	
	理由	これまでも、田んぼは単に水稻生産の場であるのみでなく、人により作られた生物生態系を担う湿地であるとの評価がされています。農林水産省は農林水産省生物多様性戦略を策定しており、生物多様性保全に資するなつみずたんぼは、目的・対象とも妥当と考えています。	
	<25> 事務事業を実施する手段や実施手法は妥当か?	1. 妥当である	
	理由	他に市内に20ha以上の湿地をうみだすのは容易ではなく、代替手段はありません。なつみずたんぼは、農と自然を大切にすNPOから高い評価を受けており、よりよい実施手法について検討の余地はありません。	
	<26> 事務事業の実施に対する市民ニーズはあるか?	1. 増大している	
	理由	生物多様性の保全の他に、農地への水張りは雑草を抑える効果があることから、市民(農家)によるニーズはありと考えます。	
	<27> 今後も市が実施する事務事業として妥当か?	1. 妥当である	
理由	環境保全のための経費がかかり、市が主体で実施する必要があると考えます。		
有効性	<28> 事務事業の成果の向上の余地はあるか?	1. 向上の余地はある	
	理由	対象者に申請書を配布し実施しているため、対象者に補助制度は伝わっていると考えられますが、事業の目的・成果についてより理解を深められる周知・PR等、向上の余地はありと考えます。	
	<29> 総合計画基本計画施策への貢献度は大きいか?	2. 中位	
理由	魅力ある自然環境を守り、コウノトリや他の水鳥等、野鳥の生息環境保全に貢献する、生物多様性保全に資する事業で、施策に貢献できる事業です。		
効率性	<30> 事務事業の効率の向上の余地はあるか?	2. 向上の余地はない	
	理由	農政推進員を通じて申請書を配布することで、漏れなくスムーズに事業実施しており、事務を効率的に行っています。	
公平性	<31> 受益者負担の水準は妥当だと考えられるか?	2. 検討を要する	
	理由	受益者負担は、比較の対象として、通常の営農に関して国・県・市が行う農業支援策があり、なつみずたんぼの交付単価は他の支援策より単価が低いと、より交付単価を増額する必要があると考えます。	
<32> 総合評価	2. 改善の余地はある	理由	コウノトリの定着の実績があり、水鳥の生息環境を生み出す生物多様性保全に資する事業ですが、実施面積が減少していることから、制度周知、交付単価の増額等、事業に改善の必要があります。
4. Action - 改善 -			
事業の改善	<33> 事業の課題 事業の改善点	・世間では持続可能性、生物多様性の重要度が高まっていて、本事業の重要性も高まっていると考えます。 ・一方で、実施面積が減少していることから増加に転じるための改善が必要なため、NPO等外部の意見を伺い事業改善を進めます。	
5 Plan - 計画 -			
事業の方向性	<34> 1次評価	所属長	1. 拡大 理由 本事業による田んぼの保全は、農業を使用しない環境にやさしいものであることから、今後も拡大に向け農家への理解を深めていきたい。
	<35> 2次評価	所管部長	1. 拡大 理由 本事業は、コウノトリの採餌環境等、魅力ある自然環境を守るという総合計画の目標に資するものであり、引き続き、取り組みを進める必要がある。
事業の計画	<36> 実施計画・今後の方針	・制度周知(HP拡充) ・補助金交付(実施面積拡大)	
	<37> 活動・成果目標	・広報・HP・PRを行った回数	